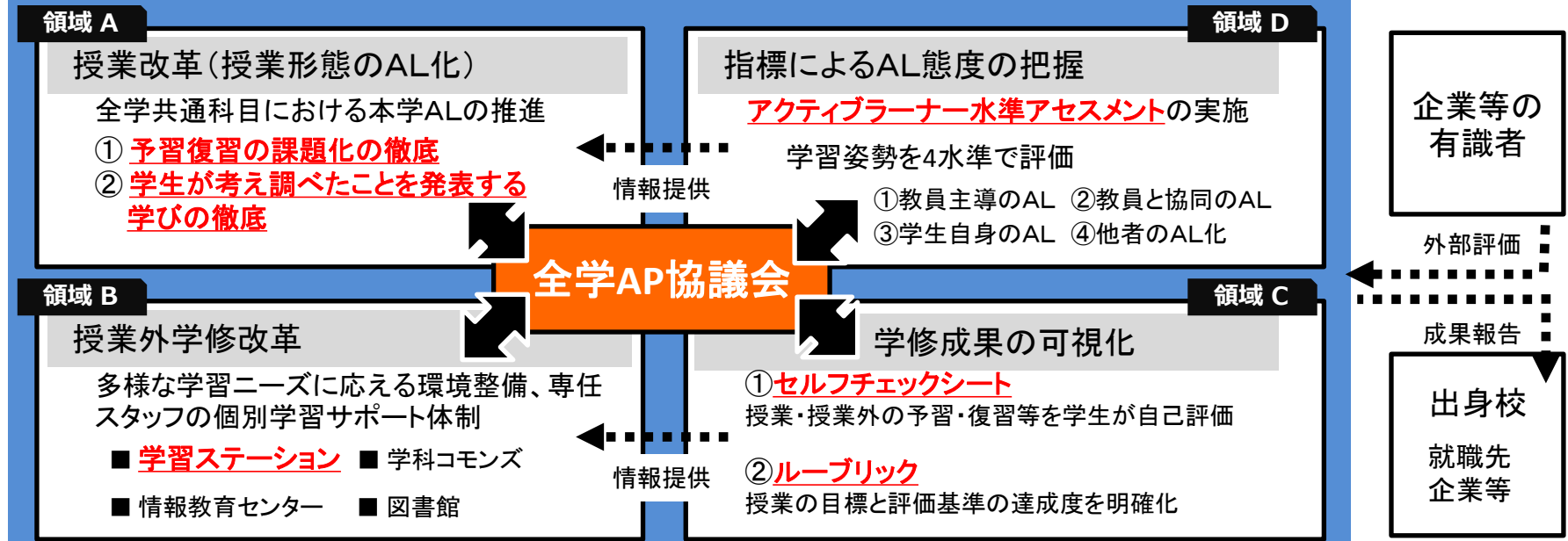


大学等名：京都光華女子大学

テーマ：テーマⅠ（アクティブ・ラーニング）

アクティブラーナー育成のための学修支援体制づくりとして、以下の4領域に取り組む。①授業の予習復習を課題化して、授業外学修の時間を確保し、授業の習熟度を高める。②授業外での課題学習を支える学習・学修マネジメント支援体制を教職協働で構築する。③ルーブリック等で、学生の自己評価と科目担当教員の客観的評価の両方で学習成果を捉え、学習・学修を点検する。④「光華AL」アセスメントを構築し、自律的な学び態度に向けて学習行動の改善を図り、その結果として授業の習熟度を高める。

個々の学生・教職員の責任にせず、組織として実現させる仕組みを構築



| 評価指標 | 26年度(実績値) | 28年度(実績値) | 31年度(目標値) |
|--|-----------|-----------|-----------|
| 領域 A アクティブ・ラーニング科目のうち必修科目数の割合 | 39.7% | 52.8% | 60% |
| 領域 B 学生1人当たりのアクティブ・ラーニング科目に関する授業外学修時間(1週間あたり) | 2.8時間 | 3.5時間 | 15時間 |
| 領域 C ルーブリック導入率 | 0.8% | 4.7% | 100% |
| 領域 D 学生の授業評価(5段階):「この授業は興味もてる」 | 4.4 | 3.8 | 4.5 |

・平成26年度学部改組後の推進期として今後、各学科の国家資格試験の合格率向上や日本の女性教育の改革を加速できる。
・授業時の各担当教員の指導に加えて、教職協働によるボトムアップでの組織的な学習支援体制が構築できる。